

標題 三瓶の有機米が保育園の給食に！試験的な取組から第一歩を。

(ダイジェスト)

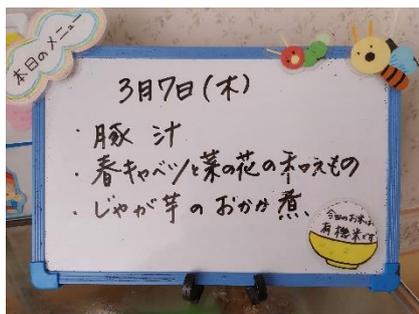
令和6年3月7日に、大田市内のあゆみ保育園に三瓶で収穫された有機米を提供し、園児や園児の親御さんに有機農業への理解促進を図る取り組みを実施しました。当日は、生産者から園児たちに向けて、有機水稻を栽培する理由やほ場のいる生き物たちについてお話をしたのち、有機米が使われた給食を一緒に食べました。

大田市三瓶町の（農）百姓天国では、平成26年から実証的に栽培期間中化学合成肥料及び化学合成農薬を使用しない水稻の栽培を開始しました。平成28年からは、同地区の（農）たねやまびこファーム、平成30年からファーム浮布（株）も栽培を始めました。令和3年には3法人が有機JAS認証を取得し、面積を拡大して有機水稻の栽培を継続しています。令和5年には新たに2法人が栽培を開始し、有機水稻に取り組む生産者が増えており、普及部では品質や収量向上に向けた指導を行っているところです。

大田市では令和5年4月に「オーガニックビレッジ宣言」を実施し、「みどりの食料システム戦略」を踏まえた有機農業の推進活動を実施しています。推進活動の一環として、令和6年3月7日に大田市内のあゆみ保育園に三瓶で収穫された有機米を提供し、保育園の先生方のご協力のもと、園児や園児の親御さんに有機農業への理解促進を図る取り組みを実施しました。

有機米を使用した給食を食べる前に、保育園の先生から稲がどんな風に見えるかを紙芝居でわかりやすくお話したのち、三瓶で有機水稻を栽培する生産者（（農）百姓天国の三島さんとファーム浮布（株）の藤原さん）から有機水稻を栽培する理由やほ場にいる生き物たちについてお話がありました。あゆみ保育園では田植や稲刈体験を実施しており、園児たちは田植や稲刈の時を思い出しながら、ほ場にいる生き物の話ではとても元気よく答えていました。

給食の時間になると、園児たちは自分でご飯とおかずを盛り付けて、生産者や関係機関も混じって給食をいただきました。有機米の給食を食べた感想を聞くと、「おいしい」という声がたくさん返ってきました。園児たちの親御さんには、当日食べた給食のメニューがわかるようになっており、メニューには有機米が使用されたことも表示されていました。園児たちが体験を通して学び、たくさん食べて、健康に育つための食育の大切さを改めて実感しました。今後も、有機農業や有機農産物について理解が広がるように関係機関と連携して今後も取り組みを進めていきたいと思ひます。



メニュー表



分づき米のごはんとおかず



園児たちにお話しする藤原さん